

vRealize Automation 8 移行評価サービスの使用

2020 年 4 月 30 日

vRealize Automation 8.1



vmware®

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>) でご確認いただけます。このドキュメントに関するご意見およびご感想は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴィエムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

Copyright © 2020 VMware, Inc. All rights reserved. [著作権および商標情報](#)。

目次

1	vRealize Automation 8 移行評価サービスの使用	4
2	vRealize Automation インスタンスでの移行評価の実行	5
3	評価結果の表示	8
4	vRealize Automation 8 に関する考慮事項	9
	システム オブジェクト	9
	ブループリント オブジェクト	10
	エンドポイント	10
	レガシー拡張性の使用	11
	vRealize Orchestrator プラグイン	12
	Postgres および Microsoft SQL Server データベースへのアクセス	12
	vRealize Automation Cloud Assembly のワークフローとアクション コードの記述	12
	vRealize Automation Cloud Assembly でのサブスクリプションの使用	13

vRealize Automation 8 移行評価サービスの使用

1

vRealize Automation 7.5 または 7.6 から vRealize Automation 8 へのアップグレードまたは移行機能は、vRealize Automation 8 ではサポートされていません。

現在、移行元の環境と組み込みの vRealize Orchestrator インスタンスに移行の評価を実行して、vRealize Automation 7.5 または 7.6 の移行元環境の移行準備を判定することのみが可能です。移行の評価では、移行の準備ができておらず、今後の移行プロセスに影響を与えるシステム オブジェクトとその依存関係についてのアラートが表示されます。[vRealize Automation 8.0 に関する考慮事項](#)を参照してください。

今後のリリースで移行が利用可能になると、現在の vRealize Automation 7.5 または 7.6 の移行元環境のコンテンツおよび構成データが vRealize Automation 8 の移行後の展開に移動されます。

[移行評価サービスを有効にするには、]次の手順を実行します。

移行評価サービスを使用する前に、そのサービスを有効にする必要があります。

- 1 新しい vRealize Automation 8 インスタンスをアップグレードして展開した後、[ID およびアクセス権の管理]に移動します。
- 2 ユーザーを選択し、クラウド管理者および、移行サービス管理者または閲覧者のロールを編集します。移行評価サービスを追加します。
- 3 vRealize Automation 8 からユーザーをログアウトします。
- 4 ユーザーを vRealize Automation 8 にログインすると、移行評価タイルが表示されます。

vRealize Automation インスタンス での移行評価の実行

2

移行評価サービスを使用すると、単一の vRealize Automation 7.5 または 7.6 インスタンスで移行評価を実行し、移行の準備状況を確認できます。

vm vRealize Automation Migration Assessment

Getting Started with vRealize Automation 7 Migration Assessment

The migration assessment service determines the migration readiness of your current vRealize Automation 7.5 and vRealize Orchestrator instances.

- 1. Configure source instances**
To start a migration assessment, first add a source instance for your vRealize Automation system. Any embedded vRealize Orchestrator instances are discovered automatically. You can also add non-embedded vRealize Orchestrator instances. Once connected, data collection and assessments are run.
- 2. vRealize Automation assessment**
Once a connection to your source vRealize Automation and vRealize Orchestrator systems is established, the assessment runs against the business group and its dependencies are checked and identified as ready, ready with warnings, or not ready for migration. You can click on each dependency to see additional information.
- 3. vRealize Orchestrator assessment**
The migration assessment runs automatically. Each package is checked for migration readiness. You can view issues and remediation steps.

Learn more
Several types of vRealize Automation 7 system objects are transformed when migrating to vRealize Automation 8. For more information about how objects are converted, see: [vRealize Automation 7 to vRealize Automation 8 Migration Guide](#)

NEXT: ADD A SOURCE INSTANCE

移行評価には、vRealize Automation ソース インスタンスへの接続と vRealize Automation インスタンスと組み込みの vRealize Orchestrator インスタンスの評価が含まれます。

vm

vRealize Automation Migration Assessment

Getting Started

Source Instances

Assessment

Infrastructure

Subscriptions

Deployments

vRealize Automation 7 Source

No update for bundle

Connect a vRA 7 instance and enable tenants to be sources for migration to this organization.

Status

Last updated Feb 7 2020 3:39 PM

UPDATE

Source Credentials

Name *vRA Source A

Hostname *cava-n-88-087.eng.vmware.com

System administrator *administrator

Password *

VALIDATE AND SAVE

Configuration

Allow migrations from these tenants

Management-ITTenant

QETenant

test2

vsphere.local

SAVE

CANCEL

Update

Existing business groups are kept in sync, but you must update to discover new business groups and run the assessment again.

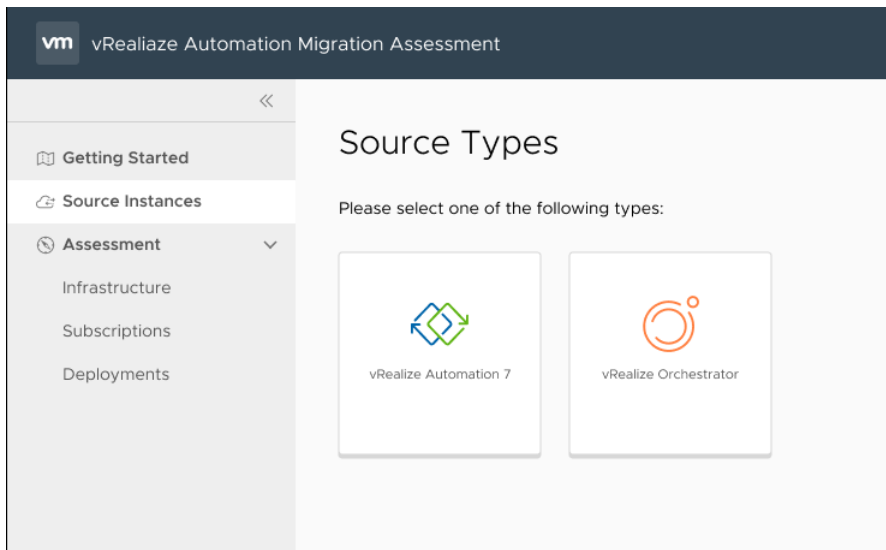
You must reenter credentials and validate in order to validate.

移行評価では、vRealize Automation の移行前の環境を確認し、移行で継承されるオブジェクトを特定します。評価結果を確認することで、移行前の環境内で正しく設定されていないアイテムや、今後の移行に対する準備ができていないアイテムを修正できます。

手順

- 1 [ソース インスタンス] 画面で、[ソース アカウントの追加] をクリックします。

- 2 ソース タイプとして vRealize Automation または vRealize Orchestrator を選択します。



- 3 vRealize Automation 7.5、7.6 または vRealize Orchestrator の移行前の環境の認証情報を入力します。

注： [ホスト名] テキスト ボックスにソースの FQDN または IP アドレスを指定する必要があります。例: test-n-88-087.test.vmware.com

- 4 [検証して保存] をクリックし、移行に使用できるすべてのテナントを検証して識別します。

注： 使用可能なすべてのテナントを識別するには、移行前の環境のシステム管理者とパスワードを指定する必要があります。

- 5 [これらのテナントからの移行を許可] で、vRealize Automation 8.0 で評価するテナントを切り替えて選択します。

- 6 [保存] をクリックして、選択したソース テナントの移行評価を完了します。

結果

移行の準備状況について、移行前の環境が評価されます。[ソース インスタンス] 画面で、移行前の環境の構成の詳細を表示できます。また、ソース インスタンスのタイルで [エクスポート] をクリックして、評価レポートをローカルドライブにエクスポートすることもできます。

注： 200 を超えるビジネス グループを含むレポートはエクスポートしないでください。200 を超えるビジネス グループの評価レポートは、評価サービス メモリからコンパイルされ、ビジネス グループの詳細は含まれません。

評価結果の表示

3

ソース インスタンスで移行評価を実行した後、結果を表示できます。

評価結果は、[アセスメント] タブのカテゴリに分類されます。

- インフラストラクチャ
- サブスクリプション
- 展開

評価済みビジネス グループが、そのステータスと共に表示されます。

- [準備完了] - ビジネス グループは、移行する準備が完了しています。移行準備のために必要なアクションはありません。
- [準備完了 (警告あり)] - ビジネス グループは準備が完了していますが、確認が必要です。移行に影響を与える可能性のある問題を修正します。
- [準備ができていません] - ビジネス グループは移行の準備ができていません。移行元環境のビジネス グループの詳細を確認し、注意が必要な領域を修正します。
- [評価中] - 移行準備のためにビジネス グループを評価中です。
- [評価が失敗しました] - 評価が失敗しました。テストを再試行してください。

該当する場合は、「準備ができていません」または「警告あり」と表示されたビジネス グループを修正した後、[更新] をクリックして評価結果テーブル上のステータスを更新します。

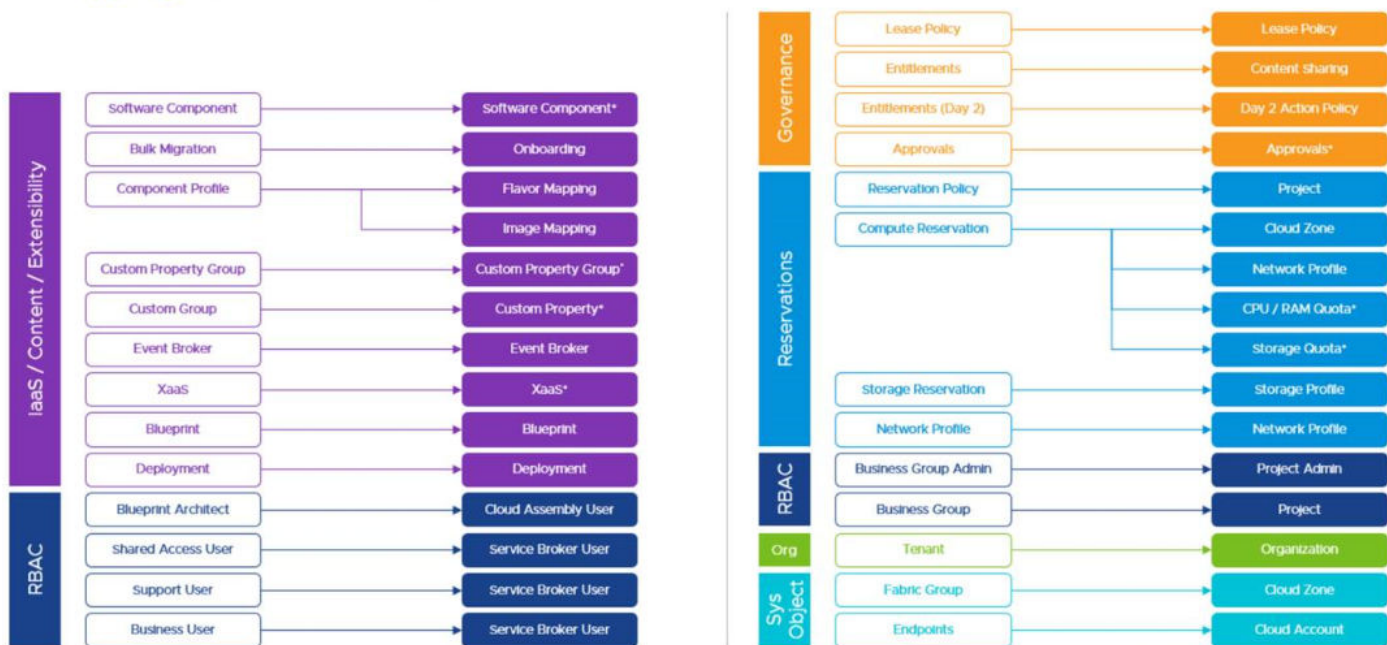
vRealize Automation 8 に関する考慮事項

4

vRealize Automation8 では、さまざまな機能の変更が導入されました。

vRealize Automation 8 への移行はサポートされていませんが、将来のリリースの下で移行元環境を移行する計画を立てるときに、7.x の考え方がどのように変換されるかを確認できます。

Mapping vRA7.5+ constructs to vRA8.x



今後の移行時に移行前の環境を最適な状態にするために、vRealize Automation8 で導入された変更を確認する必要があります。

この章には、次のトピックが含まれています。

- システム オブジェクト
- レガシー拡張性の使用

システム オブジェクト

システム オブジェクトの命名および保存の方法が vRealize Automation7.5 および 7.6 とは異なります。

次のシステム オブジェクトは新しい形式で保存されます。

- ブループリント
- エンドポイント

ブループリント オブジェクト

vRealize Automation7.5 または 7.6 ソースを新しい vRealize Automation 環境と比較する場合、ブループリント オブジェクト タイプは異なります。

表 4-1. ブループリント タイプ

タイプ	vRealize Automation7.5 または 7.6	vRealize Automation8.0
vSphere (vCenter Server) マシン	Infrastructure.CatalogItem.Machine.Virtual.vSphere	Cloud.vSphere.Machine
AWS	Infrastructure.CatalogItem.Machine.Cloud.AmazonEC2	Cloud.AWS.EC2.Instance
Azure マシン		Cloud.Azure.Machine
汎用仮想マシン	Infrastructure.CatalogItem.Machine.Virtual.Generic	Cloud.Machine
オンデマンドのロード バランサ (NSX)	Infrastructure.Network.LoadBalancer.NSX.OnDemand	Cloud.NSX.LoadBalancer
オンデマンド ルーティング ネットワーク (NSX)	Infrastructure.Network.Network.NSX.OnDemand.Routed	Cloud.NSX.Network
NSX-T のオンデマンド ルーティング ネットワーク	Infrastructure.Network.Network.NSXT.OnDemand.Routed	Cloud.NSX.Network
NSX-T のオンデマンド NAT ネットワーク	Infrastructure.Network.Network.NSXT.OnDemand.NAT	Cloud.NSX.Network
既存のネットワーク	Infrastructure.Network.Network.Existing	Cloud.vSphere.Network
オンデマンド プライベート ネットワーク (NSX)	Infrastructure.Network.Network.NSX.OnDemand.Private	Cloud.NSX.Network
Puppet	ConfigManagement.Puppet	Cloud.Puppet
Ansible	ConfigManagement.Ansible	Cloud.Ansible
注: vRealize Automation7.5 および 7.6 は Ansible Tower をサポートしていますが、vRealize Automation 8.0 は Ansible のみをサポートしています。		

エンドポイント

エンドポイントは、以前のバージョンの vRealize Automation とは異なる方法で追加およびサポートされます。

表 4-2. vRealize Automation 8 でサポートされるエンドポイント

エンドポイント	追加方法
Azure	クラウド アカウントとして追加
AWS	クラウド アカウントとして追加
vCenter Server	クラウド アカウントとして追加
NSX-T	クラウド アカウントとして追加
NSX-V	クラウド アカウントとして追加
Puppet	統合アカウントとして追加
Ansible	統合アカウントとして追加
IPAM	統合アカウントとして追加
vRealize Orchestrator	統合アカウントとして追加

サポート対象外のエンドポイント

vRealize Automation8.0 では、以下はサポートされていません。

- OpenStack
- vCloud Air
- vCloud Director
- vROps
- プロキシ
- NetApp ONTAP
- Hyper-V (SCVMM)
- KVM (RHEV)
- VCH エンドポイント

レガシー拡張性の使用

今後のリリースでは、移行するときに、拡張性機能は vRealize Automation Cloud Assembly サービスでホストされ、イベント ブローカによって管理されます。

移行前の環境によっては、vRealize Automation8.0 で拡張性を最適化するには、既存のワークフローおよびアクション コードの変更が必要になる場合があります。変更と新機能は次のとおりです。

- vRealize Orchestrator プラグインのサポート
- Postgres および Microsoft SQL Server データベースへのアクセス
- vRealize Automation Cloud Assembly で使用するためのワークフローまたはアクション コードの再書き込み

- vRealize Automation Cloud Assembly でのサブスクリプションの使用

vRealize Orchestrator プラグイン

vRealize Automation では、いくつかの vRealize Orchestrator プラグインはサポートされていません。

次のプラグインはサポートされなくなりました。

- vRealize AutomationCAFE プラグイン
- vRealize Automation.NET プラグイン
- vRealize AutomationREST プラグイン

新しい vRealize Automation 8.0 API インターフェイスを使用するには、vRealize Orchestrator のすべてのカスタム コンテンツを書き換える必要があります。REST プラグインを使用した vRealize Automation への API 呼び出しに依存する実装は書き換える必要があります。

リファクタリングの労力を削減する必要があるワークフローの記述については、[vRealize Automation Cloud Assembly のワークフローとアクション コードの記述](#)を参照してください。

Postgres および Microsoft SQL Server データベースへのアクセス

Postgres および Microsoft SQL Server データベースへのアクセスはサポートされていません。

今後のリリースの移行またはアップグレード中の問題を最小限に抑えるには、サポートされている API インターフェイスを使用します。

注： 現在、vRealize Automation バージョン間で直接データベース クエリを修正するためのガイダンスはありません。

vRealize Automation Cloud Assembly のワークフローとアクション コードの記述

これらのベスト プラクティスを使用すると、拡張性コードとワークフローを記述して、vRealize Automation Cloud Assembly と簡単に連携できます。

イベント ブローカからのペイロードの使用

vRealize Automation Cloud Assembly と連携するためにコンテンツを記述またはコーディングする場合は、vRealize Automation を呼び出して情報を取得するのではなく、イベント ブローカ ペイロードで提供されているコンテンツを使用します。ワークフローに渡されるペイロードを無視し、vRealize Automation から同じ情報をクエリするのが一般的な方法です。vRealize Automation Cloud Assembly では、vRealize Orchestrator ワークフローをサブスクリプションして、その状態に必要なすべてのワークフローを呼び出します。

その場合、更新が親ワークフローにのみ必要になるため、必要なリファクタリングの量が減少します。

vRealize Automation プラグイン オブジェクトをサブワークフローまたはアクションに渡すことはできません

vRealize Automation プラグイン オブジェクトを vRealize Automation プラグインを呼び出していない要素に渡すことはできません。代わりに、要素が実行に必要な特定の情報を渡します。たとえば、仮想マシン名のみが必要なアクションに仮想マシン オブジェクトを渡すのではなく、仮想マシン名を文字列として渡します。

vRealize Automation Cloud Assembly でのサブスクリプションの使用

今後のリリースでは、移行が使用可能な場合、移行後の vRealize Automation 7.5 または 7.6 の拡張性をそれぞれに応じたサブスクリプションと一緒に vRealize Automation Cloud Assembly で使用します。

表 4-3. vRealize Automation Cloud Assembly 内のサブスクリプション

サブスクリプション	用途
ブループリント コンポーネントの完了	必要に応じて使用します。
ブループリント コンポーネントの申請	必要に応じて使用します。
ブループリント構成	必要に応じて使用します。
ブループリント申請の完了	必要に応じて使用します。
ブループリントの申請	必要に応じて使用します。
ビジネス グループ構成	必要に応じて使用します。
カタログ申請の完了	必要に応じて使用します。
カタログ申請の受信	必要に応じて使用します。
コンポーネント アクションの完了	必要に応じて使用します。
コンポーネント アクションの申請	必要に応じて使用します。
展開アクションの完了	必要に応じて使用します。
展開アクションの完了	必要に応じて使用します。
エンドポイント アクション	制限使用
EventLog デフォルト イベント	制限使用
インフラストラクチャ エンドポイントのテスト接続	使用しません。
IP アドレス管理の IP アドレス ライフサイクル イベントの完了	制限使用
マシンのライフサイクル	制限使用
マシン プロビジョニング	以下でのみ使用： <ul style="list-style-type: none"> ■ BuildingMachine ■ MachineProvisioned ■ 破棄状態
Orchestrator サーバ構成	使用しません。
Orchestrator サーバ構成 (XaaS) - 廃止	使用しません。
事後承認	必要に応じて使用します。

表 4-3. vRealize Automation Cloud Assembly 内のサブスクリプション（続き）

サブスクリプション	用途
事前承認	必要に応じて使用します。
リソース回収完了イベント	使用しません。